

カイトと  
リュウさんの

# 遺跡へ行こう

## その2 砂丘に抱かれた弥生の墓地 どいがはま 土井ヶ浜遺跡



カイトとリュウさんは、大阪府立弥生文化博物館の展示品から飛び出した、博物館のキャラクター「館キャラ」です。本冊子では「弥生遺跡」や各地の「博物館」を訪ねて日本中を駆けめぐります。二匹の活躍にご期待ください！



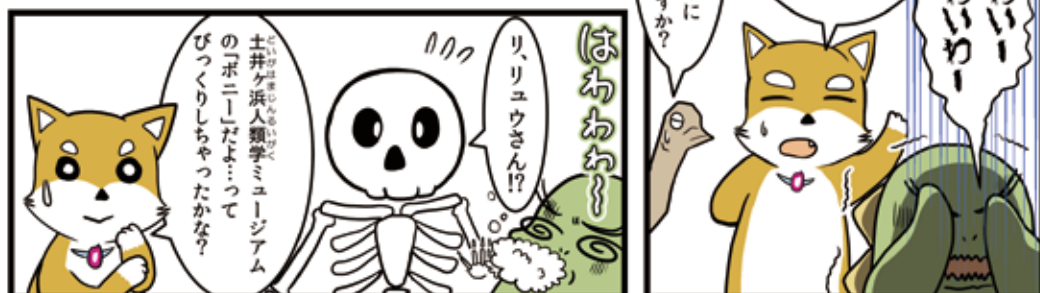
本冊子は、文化庁からの補助金を受け、日本全国の代表的な弥生遺跡を紹介するために制作しました。



日本列島は、いまでもこそ「日本」というひとつの国にまとまっていますが、弥生時代にはたくさんのクニがそれぞれの地域で独特な文化を築いていました。

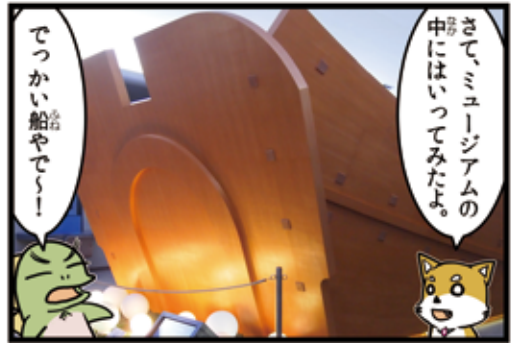


カイトとリュウさんの 遺跡へ行こう



本冊子で紹介する遺跡を訪れば、出土した遺構や遺物はもちろん、遺跡の周りの自然や地形環境、気候のほか、遺跡の立地など、自分たちの地域とは異なる部分に気が付くはず。

# 遺跡へ行こう



島国ならではの多様な風土が生み出した、特色豊かな弥生文化。それはいまの日本文化の源流となるものです。時には、悠久の時を超え、遙か先人たちの叡智に想いを馳せてみませんか。





▲ 第2次発掘調査(1954年)の風景



▲ 縄文人(左)と弥生人(右) (イメージ)

一九五三年の第一次発掘から二〇〇〇年まで、一九回にわたる調査が行われたよ。これらの調査でみつかった弥生時代の人骨はなんと、約三〇〇体!! およそ六〇年前、調査がはじまった頃には、弥生時代の人骨の出土例はほとんどなかったよ。



▲ ボニー

それでは! ここからはボク、ボニーが土井ヶ浜遺跡のことを紹介するよ!

でもね、このような身体的特徴があったことで、新しい謎も出てきたんだよ。それは、弥生時代の前、縄文時代の人と顔つきや体格が大きく違っていること。縄文時代の人は、顔が短く彫りが深

い方なんだよ。でもね、このような身体的特徴が分かったことで、新しい謎も出てきたんだよ。それは、弥生時代の前、縄文時代のひとと顔つきや体格が大きく違っていること。縄文時代の人は、顔が短く彫りが深い方なんだよ。

たんだ。でも、土井ヶ浜遺跡から保存状態の良い人骨がたくさん出てきたことで、弥生時代の人たちの事がいろいろと分かってきたんだよ。  
土井ヶ浜弥生人の顔は、縦に長く、鼻もあまり高くない。のっぺりとした顔立ちだったことがわかってきた。身長は男性で一六三㎝、女性で一五〇㎝くらいだったと考えられているんだ。縄文時代から現代までの平均身長を比べても、高い方なんだよ。

### 歯に残された

#### 土井ヶ浜弥生人の生活誌

さて、次は、土井ヶ浜弥生人の生活のようすを「歯」からみていこう。  
弥生時代からはじまったとされる「コメ作り」によって、人びとの生活様式や食生活は大きく変化したんだ。そして、その変化の痕跡が土井ヶ浜遺跡の人骨にも残されているんだよ。  
その一つが虫歯。現代の人たちも虫歯に苦しんでいるけど、それは土井ヶ浜弥生人も同じみたいで、全体の約二割の人に虫歯の痕跡が確認されているんだ。狩猟や採集生活を営んでいた縄文時代の人たちの虫歯の割合は、およそ一割だか

くて、身長は男性で一五八㎝、女性は一四七㎝と低い。縄文と弥生でなんでもこんなに違うんだらうってことになったんだよね。その後の研究では、弥生時代になって、大陸から土井ヶ浜弥生人のような体つきをした人たちが日本列島へ来たんじゃないか、さらに、そうした人たちが元々日本列島にいた人たちと交流を深める中で身体的特徴が変わったんじゃないかと考えられているんだよ。



▲ 土井ヶ浜遺跡の弥生時代人骨の虫歯(赤丸)

ら、土井ヶ浜弥生人は縄文時代の人たちより虫歯が多いよね。稲作技術が最初に渡来したとされる北部九州地域の弥生時代の人たちの虫歯の割合も、縄文時代の人たちより多いことが分かっているんだよ。

このような、狩猟や採集をしている人と、農耕を行っている人との虫歯の割合の違いは日本以外の地域でも確認されていて、一般的に農耕をしている人のほうが虫歯の割合が多いことが分かっているんだよ。その原因は、食べ物の違い。農耕によって採れた穀物は糖質が含まれるし、歯にくっつきやすいよね。穀物を食べる量が増加することで、口の中の衛生

カイトとリュウジさんの 遺跡へ行こう

環境が悪くなる。そのため、農耕民はより虫歯ができやすいと考えられているんだ。また、現代の虫歯は、臼歯の中でも歯と歯が咬みあう部分（咬合面）に多いんだけど、土井ヶ浜弥生人は、咬合面のほか、歯の側面にも虫歯があることが多いんだ。歯ブラシなどが無い時代は、歯の側面は磨きにくかったんだろっね。

人類の歴史の中で、農耕の開始は大きな進歩で、日本においても稲作農耕がはじまった弥生時代は歴史の大きな転換期だったんだよ。でも、穀物をたくさん食べることによって虫歯に苦しむ人が増えたことは、必ずしもいいことばかりではなかったんだねえ。

### 砂丘に眠る、土井ヶ浜弥生人

土井ヶ浜弥生人の墓地は、小高い砂丘の上に造られていたんだよ。その広さは、東西約一三〇m、南北約七〇m。墓域は、大きく東と西に分かれていて、東側は密集して分布しているけど、西側ではお墓が列になって並んでいるよ。

お墓に遺体を埋葬するときに掘る穴を「土壇」って言うんだけど、土井ヶ浜のお墓で最も多いのが、穴を掘っただけの



▲ 2号石囲墓

土壇墓だよ。それ以外にも、土壇の中に施設を造った配石墓や石囲墓、箱式石棺墓があるんだ。この三つのお墓は、石の大きさや使い方によって分けられているよ。

まず配石墓は、一〇〜五〇cmほどの石を土壇の四隅に置いたり、頭を二つの石で挟んで、脚にはひとつ置いたり、頭と脚にひとつずつ置くなどバリエーションが豊富なんだ！次に石囲墓は、三〇〜四〇cm程度の石を遺体の両側や周囲に並べるお墓のことだよ。ときには二段に石を積むこともあったみたい。最後に箱式



▲ 合葬例

石棺墓は、六〇cm以上の大きくて偏平な石で遺体を囲んだお墓のことだよ。石囲墓は石を寝かせて使うけど、箱式石棺墓は立てて使って、さらに蓋石ものせるんだ。箱式石棺墓は大きいもので長さが三m近くあって、中には複数の人たちが一緒に埋葬されているよ。

お墓の多くは一つの墓に一人が埋葬されるけど、なかには親族関係がある人たちが（親族関係は歯の計測値を調べるとわかるんだよ。）同じお墓に埋葬されることもあったんだ。同時期に死亡した二人を同じお墓に葬ることを「合葬」、死

亡時期が異なっていても、すでに遺体が埋葬されているお墓に遺体を追加することを「追葬」と言うよ。土井ヶ浜のお墓でもこの



▲ 集骨例

合葬や追葬が見つかっているんだ。その他には、遺体が骨になるまで待つてから、一部の骨を選んで、集めて埋葬する「集骨」というものもあるよ。ここで見つけた集骨の中で最も多い人骨があった土壇墓では、二二体分の頭蓋骨が集められて埋葬されていたんだ。

遺体は埋葬されるときに、仰向けに寝かされることが多かったんだけど、これを「仰臥」というんだ。脚は強く曲げることが多くて、膝を立てることもあったよ。腕は肩に手を置くように強く曲げたりお腹に置いたりすることが多いけど、手を伸ばすこともあったんだ。



▲仰臥屈葬例



▲北西に顔を向ける土井ヶ浜弥生人

土井ヶ浜弥生人のお墓の最大の特徴は顔の向きだよ。ほとんどのお墓で顔が北西を向くように頭を少し高くしているんだ。顔を向けた先には海があり、きれいな眺めがみつめられるようにしたのかも。しれないし、その先の大陸に思いを馳せていたのかもしれないね。

そうそう、土井ヶ浜では、子供も大人も同じようなお墓に同じように埋葬されているんだ。だから、土井ヶ浜の人たちは、比較的格差が少ない社会をつくっていたのかも。しれないね！ミュージアムの横には、当時のお墓の様子がみられる「土井ヶ浜ドーム」があるよ。弥生時代の遺

に対する考え方を実感できるかも。

### 貝を身につけた弥生人

土井ヶ浜遺跡のお墓では、供献土器（お供え用の土器）や武器類はほとんど副葬されていないんだけど、ガラスや石、貝で作った装身具（アクセサリー）が発見されているよ。なかでも、貝製装身具は三三七三点も出土したんだ！

土井ヶ浜は海に面した遺跡なので、人びとは日常的に貝類を食べていたと考えられているけど、装身具に加工する巻貝・二枚貝と、遠く琉球列島で採れた

構面を保存して、その2mほど上に発掘された時の状態のお墓を再現しているんだ。ドームに行くと、これまでお話ししてきた色んなタイプのお墓や埋葬の形が分かるし、現在のお墓との違いや、弥生時代の人の死者

に対する考え方を

構面を保存して、その2mほど上に発掘された時の状態のお墓を再現しているんだ。ドームに行くと、これまでお話ししてきた色んなタイプのお墓や埋葬の形が分かるし、現在のお墓との違いや、弥生時代の人の死者

大型巻貝の二種類で、この琉球列島産の大型巻貝を多用していることも土井ヶ浜遺跡の特徴のひとつなんだよ。

じゃあ、貝製品の種類にはどんなものがあるかみてみよう。

まずは貝輪（腕輪）。近海産の貝では、ユキノカサ、マツバガイ、ハイガイ、サトウガイ類、タマキガイ科が使われているよ。琉球列島産の貝では、ゴホウラ、アツソデガイ、イモガイ科が使われているんだ。このうち、ゴホウラの腕輪は最も多くて、一六点も出土。貝輪は、身につけた状態で出土することや、人骨の近くから出土することもあって、こうした状況から、基本的にゴホウラ腕輪は成人の男女に、大きめの二枚貝腕輪は成人女性に、アツソデガイ・小型巻貝・小型二枚貝の腕輪は子供に伴つものと考えられているんだ。



▲貝製品（撮影：奈良文化財研究所）

ちよつとここで豆情報！このゴホウラの腕輪をした二二四号人骨。ドームでみた棒の刺さった人骨だけど、かなり変わっているんだ。体の周囲から石鏃が一二个も出土して、頭や体の骨にいくつも傷跡があり、顔も壊されているんだ。背骨や腰骨には、石の剥片が埋まっている、おそらく石鏃が刺さった跡だと考えられているんだ。こうした状況は、この人だけに認められることなんだよ。だからこの人は村を守った英雄や、呪術的な力を持ったシャーマンではないかと言われているんだ。



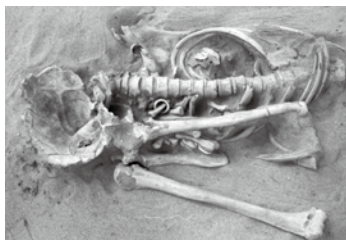
▲124号人骨



カイトとリュウさんの  
遺跡へ行こう



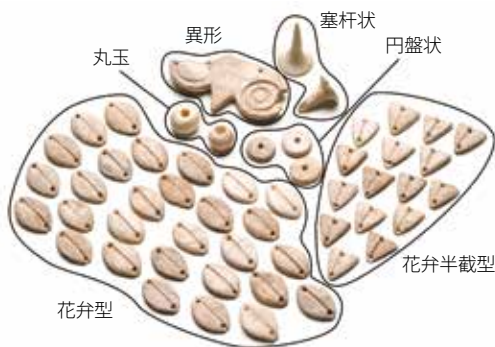
▲腕輪の作り方がわかるモニュメント



▲指輪をはめた男性人骨

さて、貝製の説明に戻って、次は指輪。指輪はマガキガイという近海産の小型巻貝で作られていて、成人人骨と一緒に出土することが多いみたい。

さらに、連結式貝製品について、小さな孔に通して連結させていた貝製品があるよ。これには、異形貝製品・花弁型貝製品・花弁半截型貝製品の三種類があつて、異形貝製品は、近海産のチョウセンハマグリが使用されたと考えられているんだ。他には、丸玉・平玉・貝珠・フトコロ



▲連結式貝製品・貝製玉類 (撮影：奈良文化財研究所)

貝珠という貝製の玉類があるよ。丸玉はやや扁平な球形で、ゴホウラなど大型巻貝が素材になっている可能性があるあるんだ。平玉と貝珠の素材貝は分らないんだ。貝珠は、直径三〜四mm、厚さ一mm弱の円盤に小さな孔をあけたピースで、全部で三四〇五点も出土したよ！フトコロガイ珠は、近海産のフトコロガイという小型巻貝に小さな孔をあけたものだよ。その他にちよつと変わった、塞杆状貝製品、有孔マツバガイ製品、円盤状貝製品、匙状貝製品などいろんなものを作っているんだ。

出土品には、ガラス製玉や石製の勾玉・小玉・管玉もあるけど、貝製品のほうが数と種類がはるかに豊富なことから、土井ヶ浜弥生人たちが装身具の素材として貝を重視していたことは間違いなし！ただし、琉球列島からどんな方法とルートで大型巻貝がもたらされたのか、貝製品を持つ人と持たない人の違いが何だったのか、など未解決の謎がまだまだあるんだ。

さて、土井ヶ浜遺跡のことが、少しわかったかな？弥生時代の人骨がこんなにたくさん出土して、よく残っている遺跡は他にそんなにないんだよ。土井ヶ浜弥生人たちがどんな姿をしていたのかを覗いて来てね。待つてるよ。



土井ヶ浜遺跡  
人類学ミュージアム  
The Doigahama Site  
Anthropological Museum.

住所：〒759-6121  
山口県下関市豊北町大字神田上  
891-8  
電話：083-788-1841  
開館時間：9時～17時  
休館日：月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日)  
12月29日～1月3日  
<http://www.doigahama.jp/>



【交通アクセス】  
(鉄道・バス) JR長門二見駅 → ブルーライン交通バス(肥中ゆき) → 土井ヶ浜バス停下車 → 徒歩3分  
(自動車)  
下関方面より 中国自動車道「下関IC」→ 国道191号を長門方面へ → 国道191号沿いの看板を左折 → ミュージアムが右手側に見えます  
長門方面より 国道191号を下関方面へ → 国道191号沿いの看板を右折 → ミュージアムが右手側に見えます



平成二七年度文化庁  
地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業  
「カイトとリュウさんの遺跡へ行こう」  
その2 砂丘に抱かれた弥生の墓地  
企画・編集・館キャラ連携プロジェクト実行委員会  
大阪府立弥生文化博物館  
マンガ・宮野ミケ  
テキスト：土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム学芸員  
発行日：平成二七年(二〇一八年)二月一日  
印刷所：株式会社中島弘文堂印刷所